

沖縄キリスト教短期大学FD委員会
(編・著)

2013年度 前期

学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 全体的評価

第2章 科目・クラス別評価

総合教育系科目

英語科科目

保育科科目

第3章 自由記述による授業評価

沖縄キリスト教短期大学

沖縄キリスト教短期大学

2013 年度 前期授業評価

沖縄キリスト教短期大学

学長 中原 俊明

2013 年度前期の学生による授業評価が実施され、その報告書がまとめられたが、多忙な中その大任を遂行された FD 委員会のメンバーのご苦勞に委員長として感謝したい。授業評価の主体は、むろん学生たちであるが、その客体は2方向、即ち教師であるとともに彼ら自身でもある。さらに授業評価項目として明示されてはいないが、外部の評価機構による認証評価の中でトップ項目とされる「建学の精神」もわれわれの意識の中にしっかり位置づけておく必要がある。ご承知のように本短大の外部評価は、2016 年度に予定されており、教師、学生ともその課題の自覚と実践が問われることを絶えず意識する必要がある。

今日の契約社会で、学院対学生（保護者）との間の入学契約を基本とし、その具体的な履行としてカリキュラムに基づく授業の提供がなされている。そして個別の科目でさらに授業の提供内容がシラバスで事前に明示され、その履行が図られる。学生による授業評価は、その結果の点検と評価という目的をもつもので、米国の大学で student evaluation として発展して来た長い歴史がある。

学生自身の学習態度（発展的学習や新たな知識への興味、受講マナー、授業参加の積極性など）に関しては、ポジティブな評価がほぼ9割前後に上がった反面で、予習復習など自主学習の面が7割程度ですべての回答項目中最低の数値となったのは今後の課題を示している。他方、学習環境への評価という面で、教師の理解と興味を引き出す工夫、資料や教材の適切さ、学んだ達成感などで9割近くが肯定的な反応であり、教師側の努力が伝わっていることを物語る。学生らの自由記述にも興味深い内容が読み取れる。例えば、授業の中で（高校までと違って）、キリスト教や平和、憲法、沖縄、歴史（移民など）、社会問題、異文化（黒人の文化を含め）や人生を学べたこと、教師の留学体験を聞き留学を考えていること、方法としてディスカッション、ディベート、プレゼンテーションで有益な経験をしたことなど、反面では教師に対し、早口なこと、声が小さく内容が伝わらない、勉強の焦点が不明、など辛口のコメントもあり、プラス・マイナス両方で今後にかさねるべき声が聞こえる。

高校まで一貫して、自由主義国に希有な学習指導要領や国定に近い検定教科書に基づく教育を受け、思考や発想が uniformity に陥りがちな学生たちに、大学で diversity の世界へと目を開ききっかけとなる教育を実践することこそ、国際化時代の要請に叶うし、本学院もこれを目指したい。

沖縄キリスト教短期大学FD委員会委員（2013年度）

中原俊明（委員長・学長）
大山伸子（委員・短期大学部長）
柳田正豪（委員・英語科長）
喜舎場勤子（委員・保育科長）
張本文昭（委員・総合教育系主任）
金城繁正（委員・企画推進課長代行）

執筆者

仲座栄利子（英語科）
赤嶺優子（保育科）
内間清晴（総合教育系）

以上

第1章

全体の評価

はじめに

2013年度前期の授業評価アンケートは、同年7月（当該学期末に近い時期）に実施し、81科目、160クラスについて分析を行った。分析に投与された評価表は、3,899件であった。評価は5段階法を採用しており、1点を最低、5点を最高の評価としている（質問項目9は2段階法）。

本章では、「Ⅰ 学習態度の自己評価」および「Ⅱ 学習環境の評価」についての全体的な傾向を示す。

1 各設問に対する結果

以下に、「Ⅰ 学習態度の自己評価」に関する結果に対して若干の解説、解釈を述べる。各設問に対する数量的な結果については、後に度数分布表および棒グラフとして示す。

Q1 「初回のオリエンテーションを聞き、授業の概要や目的、成績評価の方法などについて正しく理解していた」

評価の平均は4.49であり、「5」評価が60.9%、「4」評価を加えると90.4%であったことから、授業目的や概要の説明、授業ガイダンス等は概ね理解されていたものと考えられる。

Q2 「私語や携帯電話の使用など、授業を乱す行為をしなかった」

評価の平均は4.48であり、「5」評価が61.2%、「4」評価を加えると89.1%であったことから、概ね受講マナーは守られていたものと思われる。

Q3 「この授業をきっかけに、発展的な学習や新しい知識に興味を沸いた」

評価の平均は4.47であり、「5」評価が60.0%、「4」評価を加えると89.0%であったことから、比較的多くの学生にとって、授業が新たな学びへの動機付けとなっていたことと考えられる。

Q4 「この授業に、積極的に参加した」

評価の平均は4.43であり、「5」と「4」の評価を合わせると87.6%であり、おおむね良好な結果であると捉えて良いと思われる。一方で、「3」「2」「1」を合計すると12.4%に達し、積極的には授業に参加していないと感じている学生もいる。

Q5 「授業時間以外にも、授業の準備や課題を行うなど、計画的に学習に取り組んだ」

評価の平均は4.23であり、「5」と「4」の評価を合わせると79.6%であったことから、これまでの設問1～4よりは低い評価となっている。本設問に対する結果は後述のQ7とも共通する傾向が認められた。

Q6 「この授業を通して、地域および国際社会の事情に、より関心を持つようになった」

評価の平均は 4.27 であり、「5」と「4」の評価を合わせると 81.0%であった。先の Q5 と同様に設問 1~4 よりは低い評価となっている。この点に関しては、授業内容や授業特性によっては、地域や国際社会の諸問題を扱いにくいケースもあり、第 2 章の科目毎の評価でより詳しく参照されたい。

Q7 「この授業の予習・復習または準備・フィードバックを自主的に行った」

評価の平均は 4.09 であり、「5」評価が 41.8%、「4」評価を加えると 73.3%であった。この数値は五段階評定を用いた設問に対する回答の中では最低である。過去に用いていた授業評価アンケートにおいても「予習や復習」に関する評価は最低であったが、今回は「準備やフィードバック」を質問文に加えたため、学生の自主的な学習についてこれまでよりも拾い上げることが出来たのではないかと考えられた。

Q8 「この授業での遅刻はなかった」

評価の平均は 4.54 であり、「5」と「4」の評価を合わせると 86.6%であり、おおむね良好な結果であると捉えて良いと思われる。

Q9 「この授業での欠席回数を把握している」

評価の平均は 0.72 であり、「はい」評価が 23.0%、「いいえ」評価は 68.4%であった。自己管理ができてない学生が多い。

以上が「Ⅰ 学習態度の自己評価」に関する項目である。続いて「Ⅱ 学習環境の評価」に関して結果を述べる。

Q10 「授業中、分からないことや理解できなかったことを質問する機会や工夫があった」

評価の平均は 4.50 であり、「5」評価が 63.2%、「4」評価は 25.3%であった。「5」と「4」の評価を合わせると 88.6%であり、概ねそのような機会や工夫は為されていたと捉えて良いであろう。はさらなる努力が求められるだろう。

Q11 「授業の開始・終了時間は適切であった」

評価の平均は 4.68 であり、「5」評価が 75.3%、「4」評価は 18.1%であった。「5」と「4」の評価を合わせると 93.4%であり、時間はほぼ適切に守られていたものと推察できる。

Q12 「授業の進め方にメリハリ（声の大小・説明内容等）があった」

評価の平均は 4.60 であり「5」評価が 71.4%、「4」の評価は 19.3%であった。概ね良好な結果と捉えて良いだろう。

Q13 「理解や興味を引き出すよう工夫されていた」

評価の平均は 4.55 であり「5」評価が 68.1%、「4」の評価は 21.0%であり、「5」と「4」を合わせると 89.1%であり、9割の学生が「理解や興味を引き出すように工夫されていた」と良い評価をしている。

Q14 「教員としての相応しくない発言や態度はなかった」

評価の平均は 4.66 であり「5」評価が 75.6%、「4」の評価は 16.5%、それぞれの評価を合わせると 92.1%であった。Q11、Q12 と共通する傾向であった。

Q15 「受講するための十分な学習環境、受講生のマナーが保たれていた」

評価の平均は 4.51 であり「5」評価が 64.1%、「4」の評価は 24.6%であった。それぞれの評価を合わせると 88.7%と、ほぼ 9割の学生から良い評価が得られている。

Q16 「教科書や配付資料、その他教材、黒板やパソコン等が有効に使われていた」

評価の平均は 4.59 であり「5」評価が 69.3%、「4」の評価は 22.0%で、「5」と「4」を合わせると 91.3%の学生から肯定的な評価が得られていると考えられる。

Q17 「授業の進度は、適切であった」

評価の平均は 4.63 であり「5」評価が 72.3%、「4」の評価は 19.7%、合計で 92.0%であったことから、比較的多くの学生にとって適切な授業進行・展開が図られていたものと推察できる。

Q18 「学んだという達成感が得られた」

評価の平均は 4.59 であり「5」評価が 70.4%、「4」の評価は 20.1%であった。5」と「4」を合計は 90.5%であった。9割の学生が授業を通して学んだという達成感や充実感を得たと考えられる。

1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	9	.2	.2	.2
	2	53	1.4	1.4	1.6
	3	313	8.0	8.0	9.6
	4	1148	29.4	29.5	39.1
	5	2369	60.8	60.9	100.0
	合計	3892	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.2		
合計		3899	100.0		

2. 授業を乱す行為をしない

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	19	.5	.5	.5
	2	39	1.0	1.0	1.5
	3	364	9.3	9.3	10.8
	4	1088	27.9	27.9	38.7
	5	2385	61.2	61.2	100.0
	合計	3895	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	4	.1		
合計		3899	100.0		

3. 発展的な学習や新しい知識への興味

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	8	.2	.2	.2
	2	52	1.3	1.3	1.5
	3	368	9.4	9.5	11.0
	4	1130	29.0	29.0	40.0
	5	2334	59.9	60.0	100.0
	合計	3892	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.2		
合計		3899	100.0		

4. 積極的な参加

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	3	.1	.1	.1
	2	54	1.4	1.4	1.5
	3	427	11.0	11.0	12.5
	4	1194	30.6	30.7	43.2
	5	2215	56.8	56.9	100.1
	合計	3893	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	.2		
合計		3899	100.0		

5. 計画的な学習への取り組み

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	26	.7	.7	.7
	2	100	2.6	2.6	3.3
	3	670	17.2	17.2	20.5
	4	1244	31.9	32.0	52.5
	5	1853	47.5	47.6	100.1
	合計	3893	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	.2		
合計		3899	100.0		

6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	31	.8	.8	.8
	2	90	2.3	2.3	3.1
	3	620	15.9	15.9	19.0
	4	1226	31.4	31.5	50.5
	5	1928	49.4	49.5	100.0
	合計	3895	99.9	100.1	
欠損値	システム欠損値	4	.1		
合計		3899	100.0		

7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	45	1.2	1.2	1.2
	2	149	3.8	3.8	5.0
	3	844	21.6	21.7	26.7
	4	1228	31.5	31.5	58.2
	5	1628	41.8	41.8	100.0
	合計	3894	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	.1		
合計		3899	100.0		

8. 遅刻はない

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	93	2.4	2.4	2.4
	2	105	2.7	2.7	5.1
	3	318	8.2	8.2	13.3
	4	478	12.3	12.3	25.6
	5	2891	74.1	74.3	99.9
	合計	3885	99.6	99.8	
欠損値	システム欠損値	14	.4		
合計		3899	100.0		

9. 欠席回数の把握

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	2661	68.2	68.4	68.4
	2	896	23.0	23.0	91.4
	合計	3557	91.2	91.4	
欠損値	システム欠損値	342	8.8		
合計		3899	100.0		

10. 授業中の質問する機会や工夫

		度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効	1	16	.4	.4	.4
	2	62	1.6	1.6	2.0
	3	364	9.3	9.4	11.4
	4	986	25.3	25.3	36.7
	5	2462	63.1	63.2	99.9
	合計	3890	99.8	99.9	
欠損値	システム欠損値	9	.2		
合計		3899	100.0		

11. 適切な授業の開始・終了時間

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	7	.2	.2	.2
2	30	.8	.8	1.0
3	218	5.6	5.6	6.6
4	705	18.1	18.1	24.7
5	2932	75.2	75.3	100.0
合計	3892	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	7	.2		
合計	3899	100.0		

12. メリハリのある授業の進め方

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	8	.2	.2	.2
2	57	1.5	1.5	1.7
3	294	7.5	7.6	9.3
4	752	19.3	19.3	28.6
5	2780	71.3	71.4	100.0
合計	3891	99.8	99.9	
欠損値 システム欠損値	8	.2		
合計	3899	100.0		

13. 理解や興味を引き出す工夫

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	16	.4	.4	.4
2	72	1.8	1.8	2.2
3	333	8.5	8.6	10.8
4	816	20.9	21.0	31.8
5	2652	68.0	68.1	99.9
合計	3889	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	10	.3		
合計	3899	100.0		

14. 教員としての相応しい発言や態度

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	17	.4	.4	.4
2	39	1.0	1.0	1.4
3	248	6.4	6.4	7.8
4	643	16.5	16.5	24.3
5	2944	75.5	75.6	99.9
合計	3891	99.8	99.9	
欠損値 システム欠損値	8	.2		
合計	3899	100.0		

15. 学習環境、受講生のマナーの維持

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	6	.2	.2	.2
2	74	1.9	1.9	2.1
3	357	9.2	9.2	11.3
4	959	24.6	24.6	35.9
5	2495	64.0	64.1	100.0
合計	3891	99.8	99.9	
欠損値 システム欠損値	8	.2		
合計	3899	100.0		

16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用

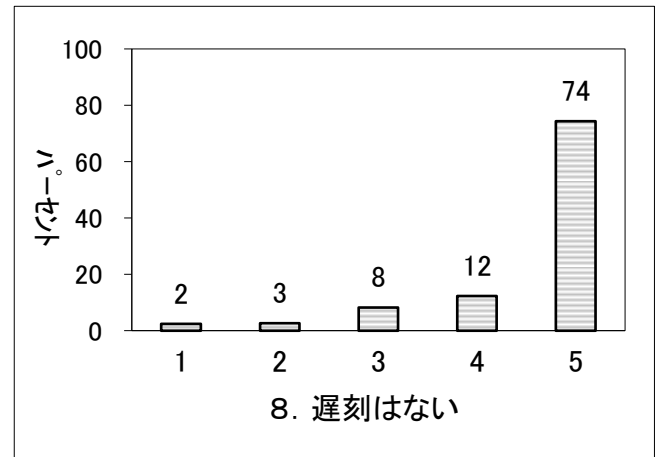
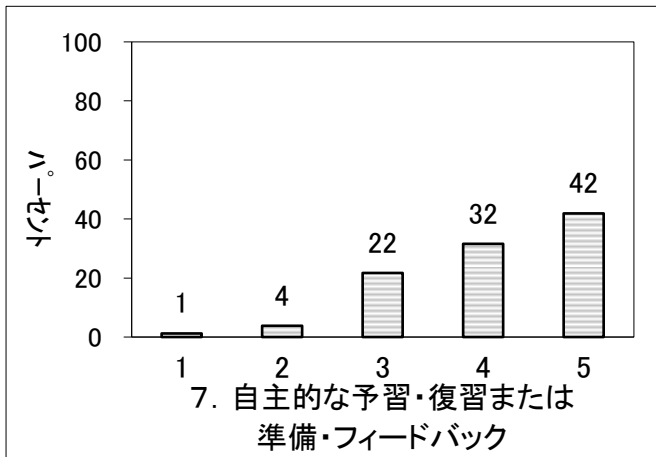
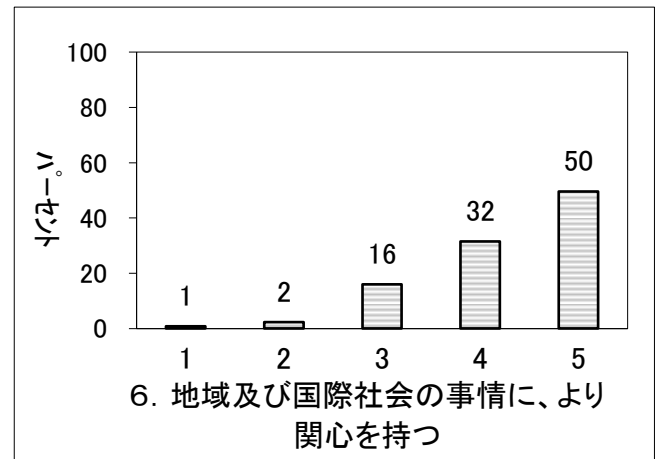
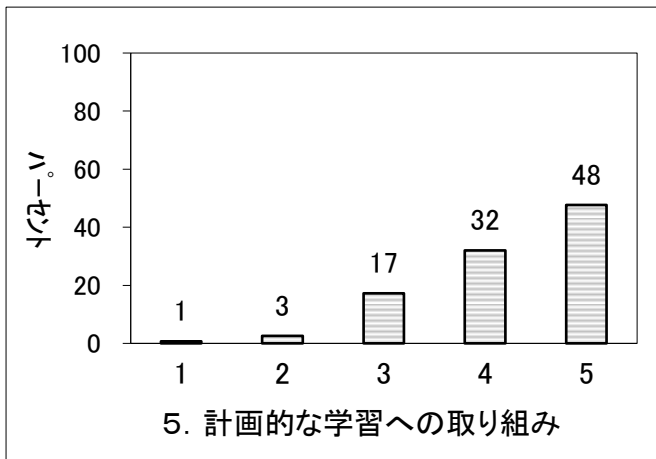
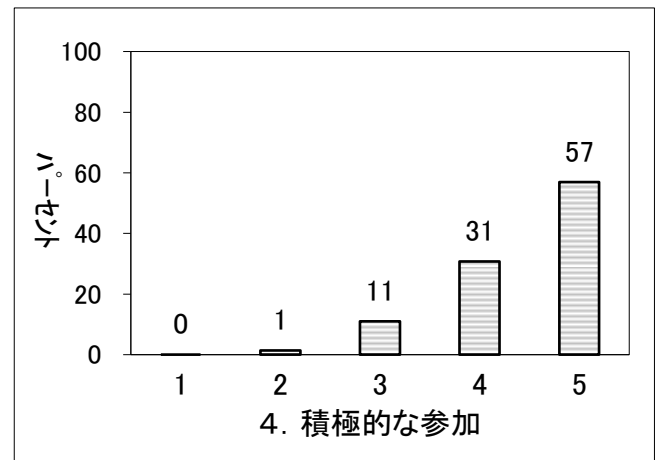
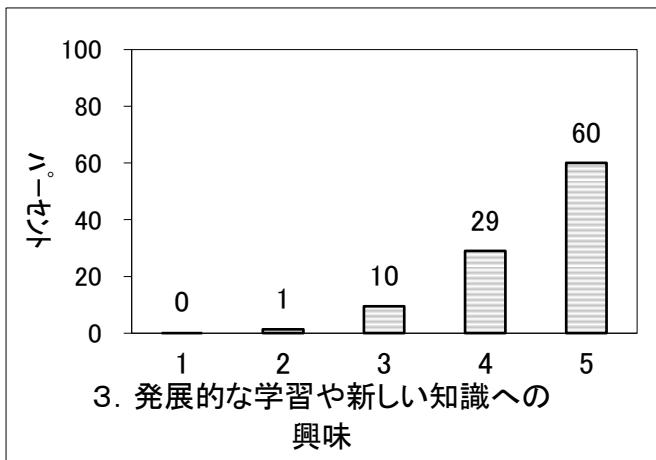
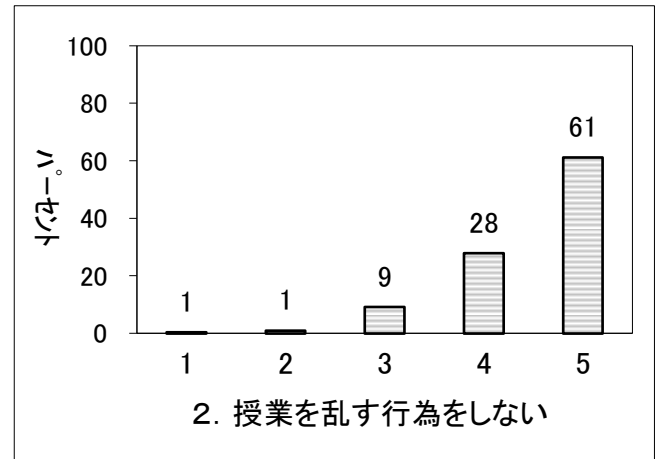
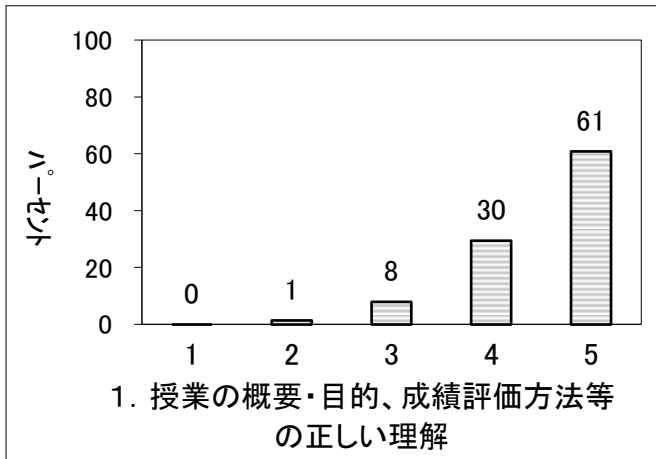
	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	13	.3	.3	.3
2	44	1.1	1.1	1.4
3	278	7.1	7.1	8.5
4	858	22.0	22.0	30.5
5	2696	69.1	69.3	99.8
合計	3889	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	10	.3		
合計	3899	100.0		

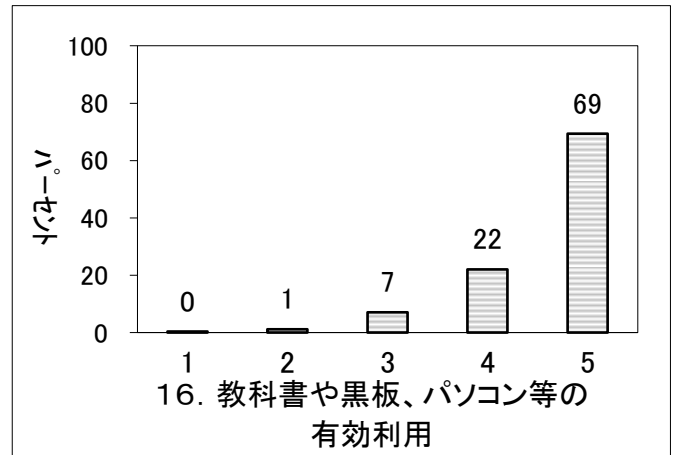
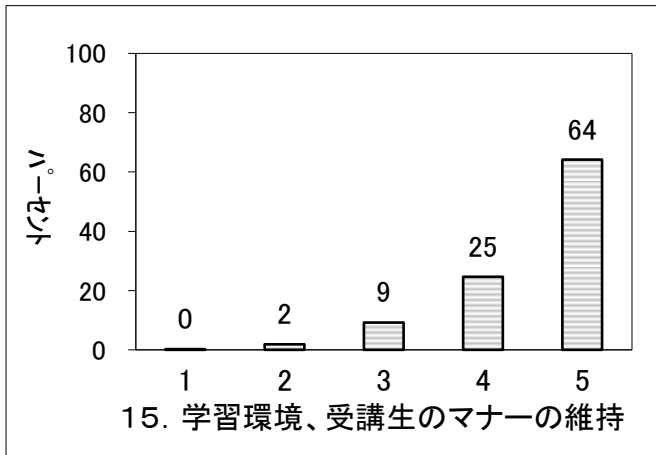
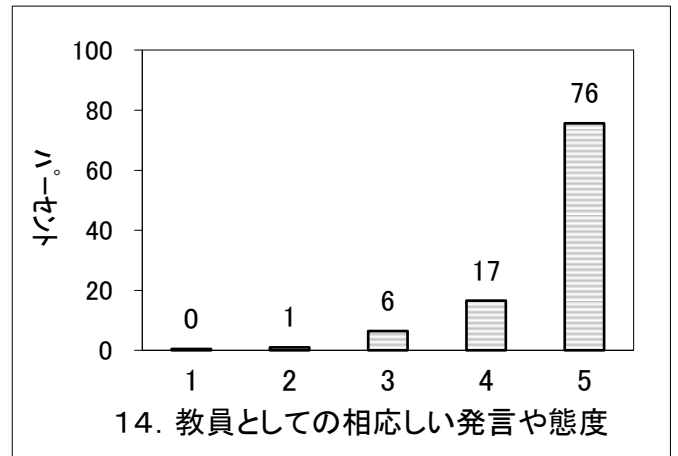
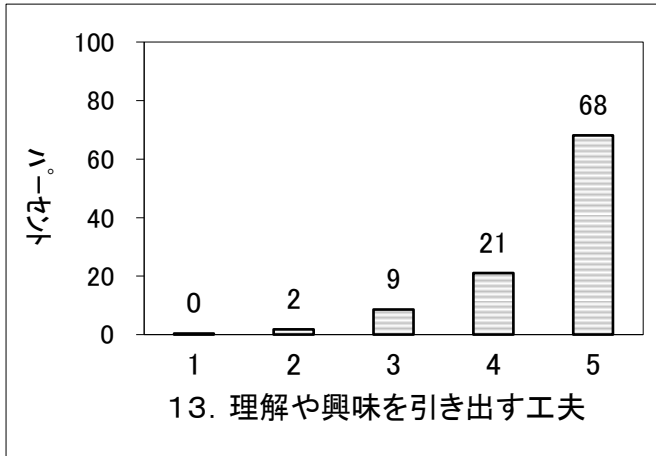
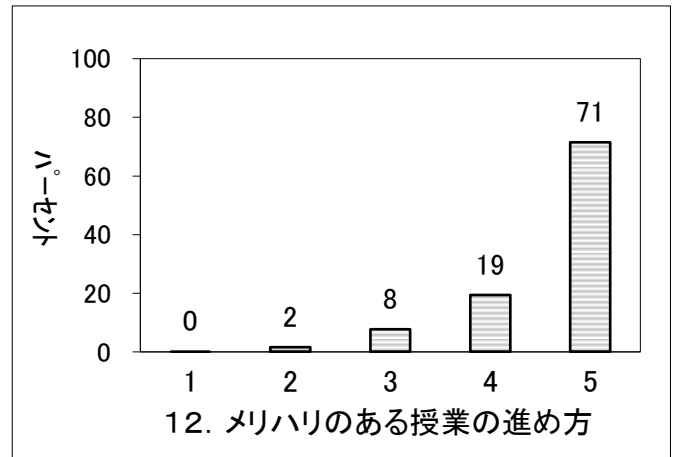
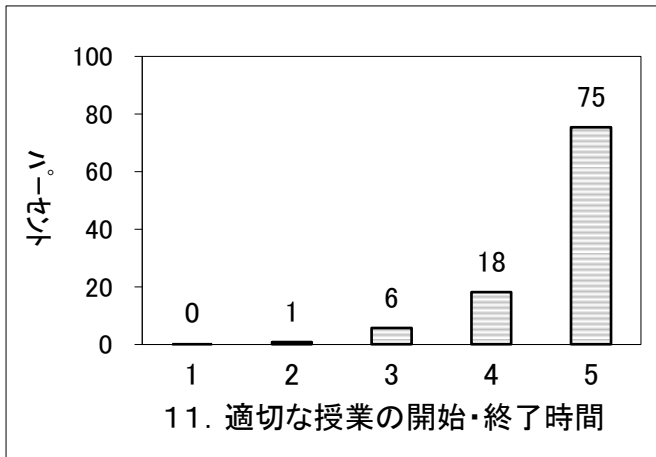
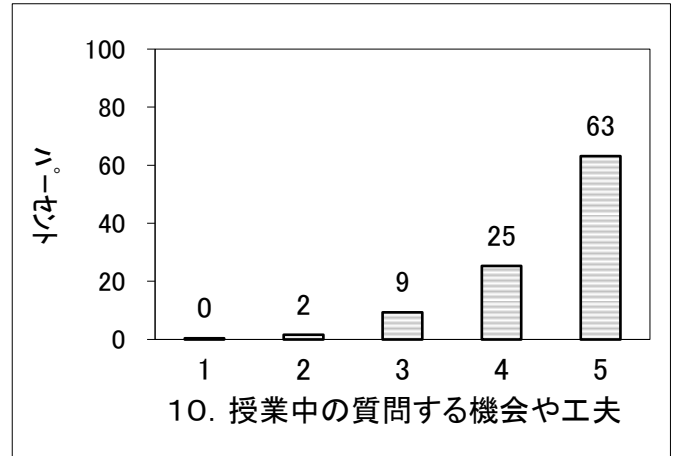
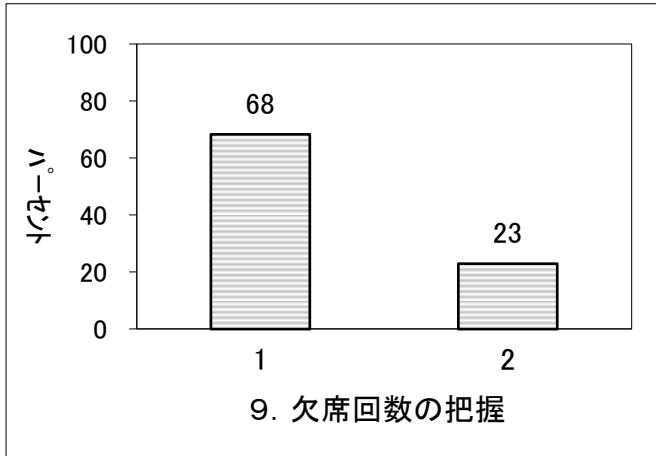
17. 適切な授業の進度

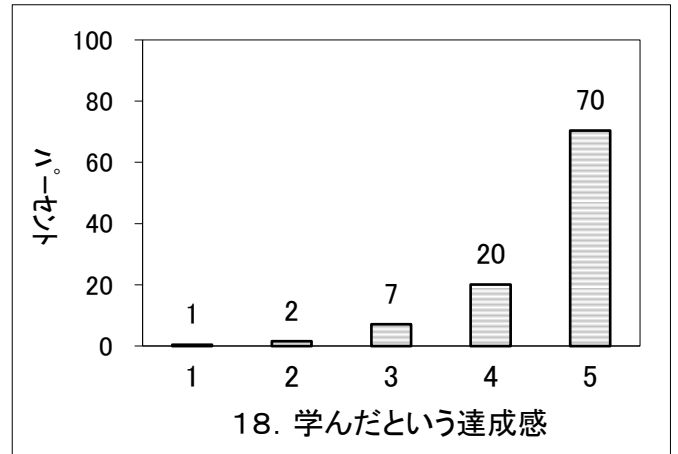
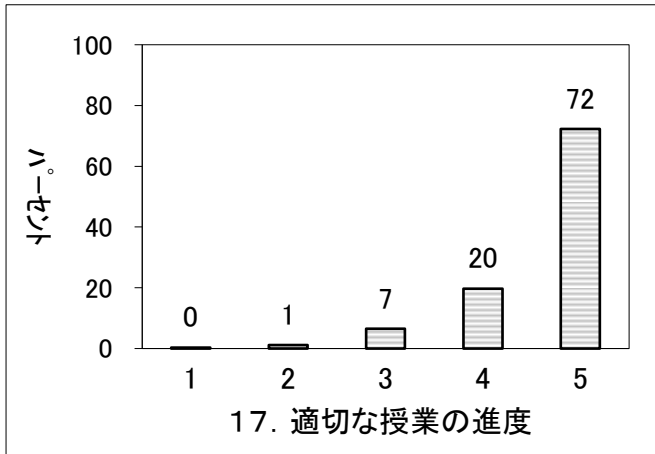
	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	13	.3	.3	.3
2	43	1.1	1.1	1.4
3	254	6.5	6.5	7.9
4	768	19.7	19.7	27.6
5	2814	72.2	72.3	99.9
合計	3892	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	7	.2		
合計	3899	100.0		

18. 学んだという達成感

	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
有効 1	21	.5	.5	.5
2	64	1.6	1.6	2.1
3	277	7.1	7.1	9.2
4	782	20.1	20.1	29.3
5	2742	70.3	70.4	99.7
合計	3886	99.7	99.8	
欠損値 システム欠損値	13	.3		
合計	3899	100.0		







2 全体の評定結果

五段階評価に対する質問 17 項目中、16 項目で平均値が 4.2 を超え、学生は概ね自らの学習態度、および大学が提供する学習環境に対して肯定的に評価していると捉えて良いだろう。16 項目の中で平均値が一番低い、Q7「この授業の予習・復習または準備・フィードバックを自主的に行った」でも評定平均は 4.09 であり、他と比較して著しく低いわけではないが、学生達の自主的学習活動の更なる向上が求められる。学生達が「自主的な予習・復習」に取り組むと、他の項目の評定平均も向上すると考えられる。学生達が「自主的な予習・復習」に取り組むにはどのようにしたら良いか、今後、教員間でも FD 等を通して議論していく必要がある。

記述統計量*

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	3892	2369	1148	313	53	9	4.49	.721
	2. 授業を乱す行為をしない	3895	2385	1088	364	39	19	4.48	.745
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	3892	2334	1130	368	52	8	4.47	.737
	4. 積極的な参加	3893	2215	1194	427	54	3	4.43	.746
	5. 計画的な学習への取り組み	3893	1853	1244	670	100	26	4.23	.870
	6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	3895	1928	1226	620	90	31	4.27	.865
	7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック	3894	1628	1228	844	149	45	4.09	.940
	8. 遅刻はない	3885	2891	478	318	105	93	4.54	.928
	9. 欠席回数の把握	3557	-	-	-	896	2661	.72	.434
II 学習環境の評価	10. 授業中の質問する機会や工夫	3890	2462	986	364	62	16	4.50	.763
	11. 適切な授業の開始・終了時間	3892	2932	705	218	30	7	4.68	.632
	12. メリハリのある授業の進め方	3891	2780	752	294	57	8	4.60	.709
	13. 理解や興味を引き出す工夫	3889	2652	816	333	72	16	4.55	.761
	14. 教員としての相応しい発言や態度	3891	2944	643	248	39	17	4.66	.682
	15. 学習環境、受講生のマナーの維持	3891	2495	959	357	74	6	4.51	.752
	16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	3889	2696	858	278	44	13	4.59	.702
	17. 適切な授業の進度	3892	2814	768	254	43	13	4.63	.686
	18. 学んだという達成感	3886	2742	782	277	64	21	4.59	.741

3 学科ごとの評価結果

3.1 総合教育系の評価結果

全体的な傾向としては、Q9を除き、評価平均は4.0以上であり、概ね良好と考えられる。他学科同様、Q7の評価平均が他項目と比較して一番低い値となっている。

記述統計量^a

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	815	505	230	70	5	5	4.50	.730
	2. 授業を乱す行為をしない	817	554	191	68	2	2	4.58	.674
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	817	446	248	107	15	1	4.37	.789
	4. 積極的な参加	817	468	237	98	12	2	4.42	.775
	5. 計画的な学習への取り組み	817	410	237	145	20	5	4.26	.876
	6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	817	403	252	136	17	9	4.25	.883
	7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック	817	353	242	171	40	11	4.08	.976
	8. 遅刻はない	814	657	74	56	15	12	4.66	.807
	9. 欠席回数把握	755	-	-	-	173	582	.72	.421
II 学習環境の評価	10. 授業中の質問する機会や工夫	815	499	190	95	23	8	4.41	.874
	11. 適切な授業の開始・終了時間	815	633	122	50	8	2	4.69	.653
	12. メリハリのある授業の進め方	814	601	140	58	12	3	4.63	.714
	13. 理解や興味を引き出す工夫	814	523	182	82	21	6	4.47	.833
	14. 教員としての相応しい発言や態度	814	602	141	57	9	5	4.63	.717
	15. 学習環境、受講生のマナーの維持	814	536	196	75	5	2	4.55	.706
	16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	814	581	164	57	8	4	4.61	.705
	17. 適切な授業の進度	814	579	155	61	13	6	4.58	.760
	18. 学んだという達成感	813	547	173	68	17	8	4.52	.813

a. 学科 = 総合教育系

3.2 英語科の評定結果

1. 学習態度の自己評価では、殆どの項目で平均値が 4.0 以上であり、良いと思われるが、項目 7 の自主的な予習・復習または準備・フィードバックが、他の項目と比較して低い値となっており、学生達のより積極的な授業への取り組みが必要である。

2. II の学習環境の評価では、約半分の項目で平均値が 4.5 以上であり、学習環境には満足していると考えられる。

記述統計量^a

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
I 学習 態度 の 自己 評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	1040	641	272	95	28	4	4.46	.800
	2. 授業を乱す行為をしない	1041	602	270	143	23	3	4.39	.825
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	1041	605	274	136	24	2	4.40	.814
	4. 積極的な参加	1040	561	292	162	25	0	4.34	.824
	5. 計画的な学習への取り組み	1040	461	303	222	43	11	4.12	.951
	6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	1041	524	283	193	35	6	4.23	.906
	7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック	1040	426	279	264	56	15	4.00	1.005
	8. 遅刻はない	1038	609	160	168	67	34	4.20	1.124
	9. 欠席回数の把握	940	-	-	-	383	557	1.60	.492
II 学習 環境 の 評価	10. 授業中の質問する機会や工夫	1039	625	242	140	27	5	4.40	.851
	11. 適切な授業の開始・終了時間	1040	767	176	80	14	3	4.63	.710
	12. メリハリのある授業の進め方	1041	720	178	110	31	2	4.52	.814
	13. 理解や興味を引き出す工夫	1040	676	205	120	34	5	4.45	.856
	14. 教員としての相応しい発言や態度	1040	746	157	106	21	10	4.55	.830
	15. 学習環境、受講生のマナーの維持	1041	670	225	117	28	1	4.47	.805
	16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	1040	693	215	104	24	4	4.51	.797
	17. 適切な授業の進度	1041	711	204	96	25	5	4.53	.797
	18. 学んだという達成感	1038	679	191	131	27	10	4.45	.879

a. 学科 = 英語科

3.3 保育科の評定結果

学習態度における自己評価の Q1～Q8 までは、すべて 4.14 を上回っており、高く評価され、授業の概要・目的、成績評価方法においても正しく理解されているものと評価する。学習環境においても、教員としての発言や態度も評価されている。また、授業のメリハリ、機器の活用、進め方、学んだという達成感などの評価は高く、教員の質について一応の評価がなされていると考える。

2 か年間で、幼稚園免許状、保育士資格等が取得できる学科の特質上、取得科目や課題は多いものの、能動的に学びを深める自律学習者への育ちに繋がるものとする。

記述統計量^a

		度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	2037	1223	646	148	20	0	4.51	.674
	2. 授業を乱す行為をしない	2037	1229	627	153	14	14	4.49	.724
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	2034	1283	608	125	13	5	4.55	.662
	4. 積極的な参加	2036	1186	665	167	17	1	4.48	.686
	5. 計画的な学習への取り組み	2036	982	704	303	37	10	4.28	.818
	6. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	2037	1001	691	291	38	16	4.29	.835
	7. 自主的な予習・復習または準備・フィードバック	2037	849	707	409	53	19	4.14	.887
	8. 遅刻はない	2033	1625	244	94	23	47	4.66	.814
	9. 欠席回数の把握	1862	-	-	-	340	1522	.41	.386
II 学習環境の評価	10. 授業中の質問する機会や工夫	2036	1338	554	129	12	3	4.58	.651
	11. 適切な授業の開始・終了時間	2037	1532	407	88	8	2	4.70	.577
	12. メリハリのある授業の進め方	2036	1459	434	126	14	3	4.64	.644
	13. 理解や興味を引き出す工夫	2035	1453	429	131	17	5	4.63	.665
	14. 教員としての相応しい発言や態度	2037	1596	345	85	9	2	4.73	.565
	15. 学習環境、受講生のマナーの維持	2036	1289	538	165	41	3	4.51	.742
	16. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	2035	1422	479	117	12	5	4.62	.644
	17. 適切な授業の進度	2037	1524	409	97	5	2	4.69	.579
	18. 学んだという達成感	2035	1516	418	78	20	3	4.68	.608

a. 学科 = 保育科

4 自由記述による評価

4.1 総合教育系の授業について

学生からの評言を概観して言えることは、以下の通りである。

- (1) 教員の指導が丁寧で、分かりやすく、講義に満足している。
- (2) 講義において、座学ではなく、参加・体験型であったり、視聴覚教材（パワーポイントやビデオ等）を使用し、講義内容が理解しやすいに工夫されており、学生達が楽しく学んでいる。
- (3) 講義を通して、学生と指導する教師の関係が良好で、良い人間関係が構築されている。
- (4) 学生からの良くない記述としては、何の授業が分からない、スピードが早い等があった。

4.2 英語科の授業について

評定結果にもあるとおり、担当教員の熱意や授業運営に関する工夫に対しては「授業の良い点」をあげている学生が多い。

学生からの良くない記述としては下記のとおりである。

- (1) 声が小さい。
- (2) 授業内容が良く分からない。

4.3 保育科の授業について

内容が学生に分かりやすく、丁寧な授業に満足している。また、授業においては、グループディスカッションや視聴覚教材（パワーポイントやビデオ等）を使用し、授業内容が理解しやすいような工夫が見られた。また、授業においては、実践の機会もあり、内容を深めることができた。

また、改善点としては、授業内容の理解に時間を要する、分からない等があった。

おわりに

全体的な傾向として、学生達は授業内容や大学が提供する学習環境に満足しているといえる。しかし、学生達の学習態度の自己評価の中で、「自主的な予習・復習または準備・フィードバック」が他の項目と比較して低い値を示しており、自ら積極的に学ぶ姿勢が弱い。本来、大学生は受動的ではなく、能動的に学ぶべきである。そのような意識を学生一人一人が、自覚して学ぶと更なる学力向上に繋がり、自らが問題や課題を発見し、それを解決する力をつけていくことになる。学生達がそのことを理解し、積極的に学習に取り組む姿勢を高めるために、教職員間でもFD等を通して議論していくことが必要である。

学生による授業評価について

調査期間：前期7月／後期1月

調査対象：全クラス

学生の皆さんへ

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはなく、「成績」に影響を及ぼすようなこともありません。また、プライバシー保護については十分留意しますので、率直かつ真摯な評価をお願いします。(学籍番号の記入欄は、学生が自分の意見に責任をもって記述してもらうために設けています。ただし、個人を特定するものではありません。)

沖縄キリスト教短期大学FD委員会委員長

沖縄キリスト教短期大学学長

この授業評価アンケートは、大きく3つの項目に分かれています。

「Ⅰ. 学習態度の自己評価」について

ここでは、学生の皆さんに、この授業で自分の学習態度はどのようなものであったかを自己評価していただきます。この項目の目的は、学生の皆さんが「自律学習者」(自分の学習を自分の立てた規律や計画に従って積極的に行う者)として、それぞれの授業にどう向き合ったかを振り返っていただくとともに、その自己評価を今後の学習に活かしていただくことです。

「Ⅱ. 学習環境の評価」について

学生の皆さんが授業を受ける際に、適切な学習環境が提供されていたかどうかをお聞きます。本短期大学と担当教員は皆さんからの評価を参考にし、より良い学習環境の提供に努めたいと思っています。

「Ⅲ. 改善のための提言」について

本短期大学と担当教員は、より良い学習環境の提供のため、改善するべき点があればそれを明らかにしたいと思っています。受講生としての立場から気付いたことを、自由に記述してください。

※記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

科目名	クラス名	性別	男	女
所属学科	1. 英語科 2. 保育科 3. 科目等履修生	学年	1年	2年
学籍番号	※差し支えなければ学籍番号を記入してください。			

(裏のページへ進んでください⇒)

沖縄キリスト教短期大学

< I 及びIIの評価方法 >

・設問 1～8、10～18 は、評価欄のあてはまる数字（1～5）に○をつけてください。

評価基準：5 とても良く当てはまる 4 当てはまる 3 どちらともいえない 2 あまり当てはまらない 1 全く当てはまらない

・設問 9 は、「はい」の場合、該当する数字を（ ）内に記入してください。

I. 学習態度の自己評価

	評 価 欄				
1. 初回のオリエンテーションを聞き、授業の概要や目的、成績評価の方法などについて正しく理解していた。	5	4	3	2	1
2. 私語や携帯電話の使用など、授業を乱す行為をしなかった。	5	4	3	2	1
3. この授業をきっかけに、発展的な学習や新しい知識に興味を湧いた。	5	4	3	2	1
4. この授業に、積極的に参加した。	5	4	3	2	1
5. 授業時間以外にも、授業の準備や課題を行うなど、計画的に学習に取り組んだ。	5	4	3	2	1
6. この授業を通して、地域及び国際社会の事情に、より関心を持つようになった。	5	4	3	2	1
7. この授業の予習・復習または準備・フィードバックを自主的に行った。	5	4	3	2	1
8. この授業での遅刻はなかった。	5	4	3	2	1
9. この授業での欠席回数を把握している。	はい（ ）回				いいえ

II 学習環境の評価

	評 価 欄				
10. 授業中、分からないことや理解できなかったことを質問する機会や工夫があった。	5	4	3	2	1
11. 授業の開始・終了時間は適切であった。	5	4	3	2	1
12. 授業の進め方にメリハリ（声の大小、説明内容等）があった。	5	4	3	2	1
13. 理解や興味を引き出すよう工夫されていた。	5	4	3	2	1
14. 教員として相応しい発言や態度であった。	5	4	3	2	1
15. 受講するための十分な学習環境、受講生のマナーが保たれていた。	5	4	3	2	1
16. 教科書や配布資料、その他教材、黒板やパソコン等が有効に使われていた。	5	4	3	2	1
17. 授業の進度は、適切であった。	5	4	3	2	1
18. 学んだという達成感が得られた。	5	4	3	2	1

III 改善のための提言

この授業を振り返り、学習環境（担当教員も含む）の良かった点・改善点を提言してください。（自由記述）

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました。